

“ビジネスをデザインし、
ビジネスを科学する”
イノベーションの扉を開くMBA

ビジネス・イノベーションを起こす人材の育成

法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科 2026



ビジネスに イノベーションを起こす 人材を育成する



総長
Diana Khor

お茶の稽古を始めた際に
楽茶碗を学びました。

16世紀から続く楽家は現在15代目で、「黒楽」「赤楽」の2種類を基本とします。しかし、楽美術館などで数百年前の茶碗が今も違和感なく使え、「黒」「赤」だけでも多彩な表現があることに驚かされます。楽茶碗の当主は伝統を守りつつ独自の作品を生み出す使命を担い、その歴史は創造性と持続性のつながりを示しています。

現在の社会はVUCA（変動性・不確実性・複雑性・曖昧性）の時代と言われており、創造、つまり「イノベーション」が、守るべきものを守りながら発展していく鍵となります。これは伝統工芸に限らず、ビジネスの世界にも当てはまるでしょう。もちろん、常に革新的なアイデアを生み出せる天才もいますが、私たちは、イノベーションを生み出す人材は育成できると考えています。

本学のイノベーション・マネジメント研究科では、皆さんの多様なニーズに応える柔軟な学びを提供する3つのコースを設置しています。いずれのコースでも、マネジメントの基盤をしっかりと固めるカリキュラムに加え、創造性を高めるスキルをプロジェクト型学習（Project-Based Learning, PBL）を通じて習得できます。これにより、ビジネス界でイノベーションを起こす人材の育成を目指します。



研究科長
玄場 公規

今日「イノベーション」という言葉は広く使われるようになりました。日本経済を成長させるため、社会をより良くするためにイノベーションが必要であることは間違いありません。ただ、イノベーションを創出するためには高度なマネジメントが必要です。どれだけ素晴らしいアイデアがあっても、革新的な技術があっても、それをイノベーションとして普及させるためには高度なマネジメントが不可欠です。イノベーションの定義は様々ですが、顧客の問題解決が重要であると指摘されています。ただ、近年、そもそも、顧客の問題が何であるのか全く分からないということも良く言われています。ビジネススクールでは問題を探索する方法など様々な理論・ツールを教えています、何よりも、教員のみならず、異なるバックグラウンドを持った学生同士の議論が新しい問題を見つけることに極めて有用です。この点、本研究科は、多様な経歴の学生が集まっています。例年、学生同士の年齢差は最大40歳程度あり、また、会社経営者、個人事業主、大手企業の中堅幹部など就労形態も多種多様です。行政機関の方や土業の方もいて、本当に様々な業種を経験した方々が多く、専門性が多様です。入学された皆さんは、活発な議論を楽しんでおられます。

本研究科は、社会人向け専門職大学院として長年のノウハウの蓄積があります。2025年度以降も教室での対面講義を原則として、オンラインでの講義も可能とするハイフレックス対応を行っています。出張などで大学にこれられない場合でも講義を受けることができると高い評価を得ています。また、本研究科の最大の特長であるプロジェクト・メソッドでは、実践的な課題を明確にした上で、その解決策を考え出して実行することを目的に実施しており、実務に直接役立つ能力を磨くことができるMBAだと自負しております。意欲的な社会人の方々に教室でお目にかかれる日を楽しみにしています。

成熟化した社会においては、ビジネスにイノベーションを起こす人材を望む声は大きい。イノベーション・マネジメント研究科（以降、IMと記載）は、この社会的ニーズに応えるべく、2004年に開校して以来、数多くの人材を輩出しています。IMでは、「経営管理修士（専門職）」の学位が取得できます。さらに、中小企業診断士登録養成課程（P8）を選択すれば、同時に「中小企業診断士」の資格を得ることができます。

多様な学びを実現するコースの併設 （1年制・1.5年制・2年制）

MBAを1年間で集中的に学ぶ1年制コースと、じっくり学ぶ2年制コースを併設しています。いずれのコースも、平日夜間と土曜日の科目を中心にMBAを取得します。また、1.5年制（9月入学）のグローバルMBAプログラム（P9）では、英語でMBAを学ぶコースも展開しています。

※昼間開講の科目のほとんどが1年制の中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）必修科目です。そのため、MBA特別プログラム以外の1年制コースは、平日夜間と土曜日を中心に履修することになります。詳しくは、個別相談などでご確認ください。

ビジネス・イノベーターの育成

これからの時代は、イノベーションがより強く求められます。リスクをふまえながらも、大胆な発想と行動力によってビジネスにイノベーションを起こせる人材「ビジネス・イノベーター」が必要とされています。そのためには、ビジネスをデザインする力と科学的にマネジメントする力が不可欠。それらの人材を「ビジネス・アーティスト」と「ビジネス・サイエンティスト」と考え、そのための力を身につける場としてIMでの学びを位置づけています。

「プロジェクト」による 革新的なビジネス構想力の養成

現実のビジネスでは、課題や新規事業に対して革新的な構想を構築できる能力が求められます。机上の空論ではなく、現実のビジネス課題を解決するイノベティブなビジネス・プランの構築等を修士論文に代わる成果として作成します。また、複数の教員によって各々の学生のプロジェクトを指導する体制がとられています。

CONTENTS

- 04 IMの7つの特色
- 05 2025年度 開講科目分野別一覧
- 06 プロジェクト・メソッド
- 08 中小企業診断士登録養成課程
- 09 グローバルMBAプログラム
- 10 注目授業レポート
- 12 目指す人材像と指導内容／
修了生インタビュー
ビジネス課題を解決する企業内イノベーターになる！
中小企業診断士として社会課題を解決する！
社会課題解決のために新しいビジネスを興す！
実践知を学び、多様なキャリアパスを創り出す！
- 16 教員紹介
- 18 2025年度 時間割
- 20 施設紹介
- 21 FAQ／OB・OG会
- 22 学生データ・修了生の声
- 23 入試制度・学費・奨学金

▶ 理念・目的および教育目標、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはこちらから確認できます。
<https://www.im.i.hosei.ac.jp/im/>





修了所要単位数：基礎・専門・応用科目の修得要件を満たして合計48単位以上。

ただし、「中小企業診断士登録養成課程」は基礎・専門・応用科目にそれぞれ必修科目があり、

「経営診断実習Ⅰ／Ⅱ」を加えて58単位以上。

※他専攻科目を専門科目として、10単位まで修了所要単位に認められます。(GMBAプログラムでは他専攻科目は修了所要単位に認められません。)

分野	基礎科目	単位	専門科目	単位
経営戦略	経営イノベーション体系	2	技術イノベーション	2
	経営戦略論	4	グローバルビジネス経営論	2
	中小企業戦略 ●	3	デザイン思考とビジネス創出	2
	経営情報戦略論 ●	3	ガバナンス経営論（ステークホルダーと企業価値経営）	2
	Global Management	2	Opportunity and Entrepreneurship in Japan	2
	Management Strategy	2	Innovation in Global Business	2
経営戦略 (中小企業・ベンチャー)			Japanese Management	2
			創業・ベンチャー起業論 ●	2
			中小企業総合経営論Ⅰ ●	2
			中小企業総合経営論Ⅱ ●	2
			事業再生・経営革新 ●	2
			地域マネジメント	2
			公共・非営利・社会的企業経営論	2
			スタートアップの創業からIPOまで	2
			インキュベーション・マネジメント	1
			ファミリー・ビジネス&ファミリーオフィス	2
人材・組織	人的資源管理 ●	2	Japanese Production Management and Supply Chain Management	2
	人的資源管理論Ⅰ	2	コーチング	2
	Strategic Organizational Management (Corporate Governance and Ethics)	2	リーダーシップ論	2
		2	Human Resource Management in Japan	2
マーケティング	マーケティング論 ●	2	Managing Talent	2
	マーケティングⅠ（マーケティング戦略）	2	Leadership, Strategy, and Entrepreneurship	2
	マーケティングⅡ（データドリブンマーケティング）	2	コンテンツビジネス論	2
	消費者行動論	2	店舗施設マネジメント ●	2
			サービスマネジメント	2
			Media and Entertainment	2
ビジネス プロセス			Marketing in Japan	2
			Service Management in Japan	2
			Applied Marketing	2
			プロジェクト・デザインマネジメントⅠ	2
			プロジェクト・デザインマネジメントⅡ	2
			事業リスクマネジメントと内部統制	2
ビジネスIT	ビジネスデータ分析基礎	2	生産マネジメント論 ●	2
	データ分析リテラシーⅠ（EXCEL）	1	サプライチェーンマネジメント	2
	データ分析リテラシーⅡ（R言語）	1	ヘルスケアマネジメント	2
			ヘルスケア・イノベーション	1
			ビジネスデータ分析実践Ⅰ（仮説検証とアンケート設計）	2
			プラットフォーム戦略	2
情報技術	データベースの基礎	2	デジタル・マーケティング	2
			ITCケース研修	4
			デジタル広告論	2
			ビジネスデータ分析実践Ⅱ（予測モデルの構築）	2
			クラウドコンピューティング	2
			モバイルプログラミング	2
財務・会計・ ガバナンス	ファイナンスⅠ	2	モバイルプログラミング（アドバンス）	2
	ファイナンスⅡ	2	ビジネス活用のためのPython基礎	2
	財務会計論 ●	2	DXとデジタルガバナンス（AIとDXによる持続可能なビジネスデザイン）	2
	財務会計論（夜時間帯）	2	リテールサイエンスとAI	2
	管理会計論	2	リスクマネジメント概論	2
	ビジネスと租税法	2	収益モデルの構築	2
ビジネス・ スキル	会計入門	2	Accounting	2
	企業倫理	2	Financial Management (Analyzing and Leveraging Financial Information)	2
	リサーチ技法	2	The Foundations of Corporate Finance in a Global Context	2
	ロジカル・シンキング	2	Entrepreneurship and New Business Creation	2
	コンサルティング技法 ●	2		
	エスノグラフィのビジネス応用	2		
応用	Business Communication in Japanese Organization	2		
	Business Practice in Japan	2		
応用科目				
応用	プロジェクト（必修）	10	Project 1-B (Field Research)	6
	経営診断実習Ⅰ ●	4	Project 2-A (Internship)	6
	経営診断実習Ⅱ ●	6	Project 2-B (Field Research)	6
	経営診断特講Ⅰ ●	6	ビジネスイノベーション育成セミナー	2
	経営診断特講Ⅱ ●	1	ビジネスリーダー育成セミナーⅡ	2
	経営診断特講Ⅲ ●	2	変革とマネジメント	2
	Project 1-A (Internship)	6	Open Innovation	2

※●は中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）必修科目で他コースの院生は、履修できません。

イノベーション・マネジメント研究科の7つの特色

1 多様なカリキュラムと
ハイフレックス講義を展開

MBAコースは、1年制と2年制を併設し、時間割は平日の夜と土曜の昼間を中心に開講しています。さらに、春学期・秋学期の集中科目、オンデマンド科目を追加し、多様な形式でライフスタイルに合わせた学習が可能です（2026年度に追加される科目については、随時HPなどをご確認ください）。また、IMのほとんどの講義は、教室での対面講義と同時にZoom配信を行うハイフレックス形式で実施されます。基本は対面受講を推奨しますが、遠隔でも学べる環境を整え、様々な事情に対応できるよう配慮されています。（※一部講義は対面のみ）。

4 ビジネス・イノベーターを
育成する学びの場

ビジネスにイノベーションを興す人材として、ビジネス・イノベーターが求められる時代に、IMでは「ビジネスを興す：ビジネス・アーティスト」と「ビジネスを科学的にマネジメントする：ビジネス・サイエンティスト」の両人材の輩出を行っています。なお、特に優れたプロジェクトを作成したグループ又は個人が事業計画を実現するための支援として、修了後1年間無料で大学院の施設を事務所などに利用できるインキュベーション制度も用意しています。

6 複数教員からの多面的な指導

プロジェクトでは、ゼミ形式で進めていきますが、ゼミの教員以外からも十分なサポートを得られる工夫として『副査フリー』という制度を採用。IMではゼミの主担当のみではなく、多くの教員から意見や指導を受けられるような環境を用意しています。また、プロジェクト担当教員は、実務経験が豊富な専任教員に加え、コンサルタントや経営者などの外部教員も在籍。様々な分野からの意見を得られる工夫がなされています。

2 中小企業に強いMBAプログラム：
中小企業診断士登録養成課程
(MBA特別プログラム) の併設

IMのMBAプログラムは、大企業だけではなく、中小企業のビジネスを担い、イノベーションを推進するMBA人材の育成にも力を入れています。また、中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）が併設されており、MBA取得と同時に中小企業診断士の資格取得を目指すコースがあります（主に平日昼間と土曜日の講義を履修します）。さらに、修了生を含めた中小企業診断士のネットワークを活用できる環境が整っており、実践的な学びを深めることができます。

5 「プロジェクト」によって
革新的なビジネス構想力を育成

本研究科では、現実のビジネス課題を解決する力を身につけるために「プロジェクト・メソッド」を中心にしたカリキュラムを展開しています。各自の興味関心に応じてテーマを設定し、イノベティブなビジネス・プランやビジネスをイノベティブにする戦略・戦術の立案などを修士論文に相当する成果として作成します。

7 自習環境の場の提供

IMのある新一口坂校舎の2階には、院生研究室を完備。一人一つのロッカーと、学習ブースを提供しています（固定席とフリーアドレスを併用）。院生研究室にはネットワーク環境やプリンターなどもあり、8時から23時までいつでも自習できる環境です（年末年始等を除く）。また、校舎には会議ブース（大型ディスプレイ設置）が複数配置されており、コースを越えた様々な院生間もしくは教員とのディスカッションがしやすい環境も整っています。

「プロジェクト」とは、従来の大学院のゼミに相当し、修士論文に相当するプロジェクト報告書の作成は、IMの教育の要として位置づけられています。

プロジェクト・メソッドとは

ビジネス課題を解決する力を養うカリキュラム

IMではビジネス課題を解決する力を身につけるために、院生各自が解くべきビジネス課題を設定し、1年にわたってその課題解決の方法を作り上げていくカリキュラムを用意しています。それが「プロジェクト」という授業科目です。

ポイントは、与えられたテーマではなく、自らが解くべきビジネス課題を設定し、プロジェクトテーマ化するという点。実は、このプロジェクト起案で、多くの院生が苦戦を強いられます。というのは、多くのビジネス課題は、そのままではアプローチできる課題とはなっておらず、「問題の本質はどこにあるのか」、「今までその課題はどのようにアプローチされ、なぜ今も課題として残っているのか」を考えなければ、解くべき課題としてのプロジェクトテーマを決められないためです。このプロセスでまずは課題設定力を身につけます。

設定されるテーマは、新規ビジネスを立ち上げるビジネスプランであったり、ビジネスを進展させる戦略・戦術の研究や各種手法の開発であったりと多種多様です。重要なのは、「自分ならではの視点」から課題解決に取り組むこと。だからこそ、修了時にイノベティブな課題解決力が身につくわけです。

これらの力を身につけるために、指導教員のみならずプロジェクト担当教員全員が一丸となって指導に当たります。

プロジェクトに取り組む重要性について

「プロジェクト」を通じて実践知を身につける

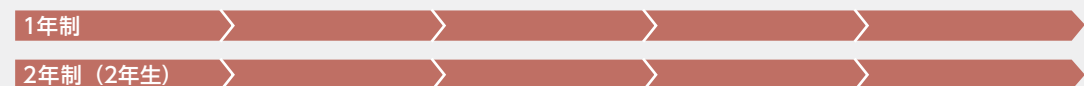
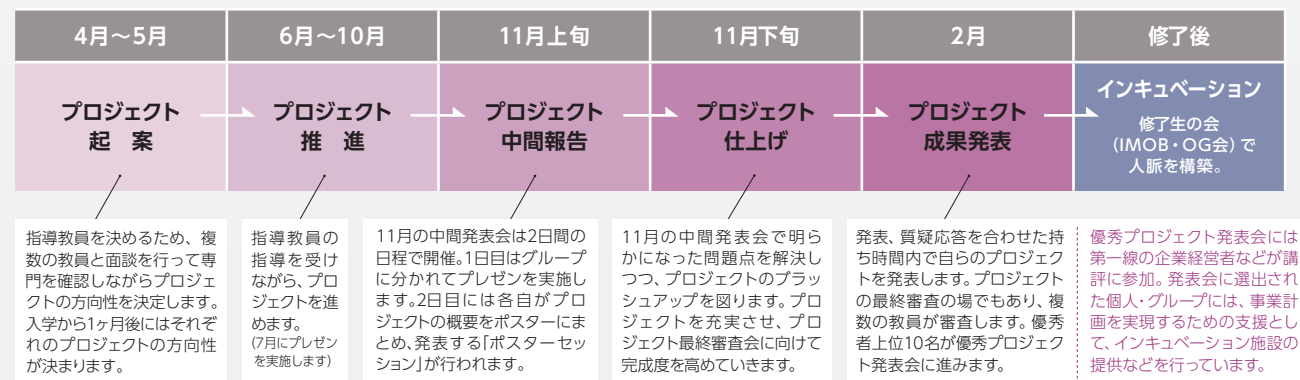
「自由を生き抜く実践知」。これは法政大学の「ブランディング・ワード」で、法政大学での学びを通じて身につけてほしい「知」が「実践知」であることを宣言した言葉です。実践知とは、社会の持つ課題を解決するために必要な「知」のことであり、単なる知識とは一線を画す知であると考えています。

イノベーション・マネジメント研究科でも、この「実践知」を身につけるカリキュラムを展開しています。そこで重要となるのは、「知識を実践知に転換する」という点です。

MBAではいくつもの理論フレームを学んでいきます。理論フレームは、複雑な事象を整理したり、全体像を俯瞰したりする際に役立ちますが、それだけで課題を解決する具体的なアイデアが得られるわけではありません。重要な点は、それをを用いることで、解くべき課題がさらに具体化されたり、その本質がより明確になったりするという点にあります。

理論フレームを自分のものとして使いこなせるようになるには、何度も現実には当てはめてみる必要があります。試行錯誤の連続と言ってもいいでしょう。本や論文を読み、教員の講義を聴いて学ぶと共に、実践の中で理論フレームを鍛えなければなりません。そこにMBAで学ぶ意義があると考えます。

プロジェクトの流れ（予定）



優秀プロジェクト発表会の様子

2024年度優秀プロジェクト発表会は、2025年3月1日に開催されました。

新たなビジネスを創出する「ビジネスプラン型」5件、今後のイノベーションに活かすべく研究を行う「特定ビジネス課題解決型」5件の発表となり、『新規就農者支援を実現する営農型太陽光発電シェアモデルの提案』、『ポストオフ社員のエンゲイジメント向上プログラムの開発 ～トップ・マネジメントによる実践的アプローチ～』など、今年も多彩な企画が発表されました。

最終審査会で選考されたこれらのプロジェクトは、富士経営経済研究所 代表 田中昌一氏を始めとする第一線のエキスパートたちで構成されるプロジェクト・アドバイザーから講評を得ました。



2024年度 優秀プロジェクトテーマ

ビジネスプラン型

- 新規就農者支援を実現する
営農型太陽光発電シェアモデルの提案
- 孤独と孤立を防止する方法の研究
ー「Lightener」がいる
ソーシャルアパートメントプロジェクトー
- 福島県内の中小企業を対象とした健康経営支援プログラム
～ふくしま発「健康経営診断士SM」が日本を健康にする～
- FoodTechチームソリューションによる経営支援
ー小売・宿泊飲食サービス業への機械システム導入による
省人化ー
- 世界3大刃物産地「関市」で作った包丁でフランスへ進出
～フランスのWEB小売市場で収益化の道筋を作る～

特定ビジネス課題解決型

- ポストオフ社員のエンゲイジメント向上プログラムの開発
～トップ・マネジメントによる実践的アプローチ～
- 業務に関する社員間の認識ギャップを可視化し、
職場リスクの解消を目指す
～可視化により職場環境を改善へと導く簡便なスキームの開発～
- 看護師シェアリングエコノミーの実証
～分散型自律組織：Patient Centricity（患者中心）への回帰～
- 「消滅現象」を取り入れたプロモーション手法の考察
～『食』における価値観の傾向を例に～
- 「別領域」との「組合せ」を促す
イノベーションアイデア発想モデルの構築

2025年度 プロジェクト・アドバイザー

田中 昌一

富士経営経済研究所 代表

中山 精一

一般社団法人ことばアートの会 監事

一般社団法人日本在宅マッサージリハビリテーション協会 監事

松枝 憲司

一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会 会長

株式会社ビジネスソリューション 代表取締役

本課程の大きな特色は、1社あたり4～5週間の時間をかけてじっくりと実習を行うことです。実際の企業で経営診断を実践することにより、プロとしてのコンサルティング能力を高めることができます。修了生の半数以上は独立中小企業診断士として活躍しています。

中小企業診断士として 総合的なソリューションを提供できる 能力を身につける

IMIは、経済産業省に中小企業診断士登録養成機関として第一号で登録され、いままで多くの中小企業診断士を養成してきました。修了生の約半数は、独立中小企業診断士として起業しています。

中小企業診断士として活躍するためには実践的なコンサルティング能力が求められます。中小企業診断士登録養成課程では、その能力を身につけるために経営診断実習に最も力を入れています。まず、チーム単位で各企業の実態調査や分析などを行い、問題点構造化→課題抽出→課題構造化→具体的解決策検討、という一連のプロセスをグループ討議の形式で進めていきます。グループ討議により各自の問題意識が触発され、広い視野で解決策を検討します。それにより実践的な「ソリューション能力」「コミュニケーション能力」を高めていきます。さらに、現状の企業の組織能力、実行力を考慮し、実現可能性、効果性の高い総合的な経営改善実行計画を策定し、経営者に提言を行います。また、これらを通して「現場感覚」「戦略的思考力」「プレゼンテーション能力」を強化していきます。年間5社の経営診断を経験することにより、コンサルティング能力をステップアップさせていきます。

卒業後はプロフェッショナルな中小企業診断士を中心としたネットワークに参加できます。法政大学大学院イノベーション・マネジメント総合研究所は、修了生と教員が中心となって設立した組織で、独立中小企業診断士等を組織面から支援しています。

中小企業診断士登録養成課程3つの特長

POINT 1 中小企業診断士の登録養成課程を1年間で受講可能

有資格者※が、中小企業診断士登録養成課程で指定した科目すべてを入学年度に履修し、中小企業庁の定めるガイドラインに沿った修得水準審査を行うことで、中小企業診断士登録に必要な科目を履修したことを証する「修了証明書」が発行されます。

POINT 2 経営管理修士（専門職）の学位を1年間で取得

中小企業診断士登録養成課程には、本研究科でのMBA取得に必要な履修単位が含まれます。修了所要単位を修得した場合、MBAの学位が与えられます。

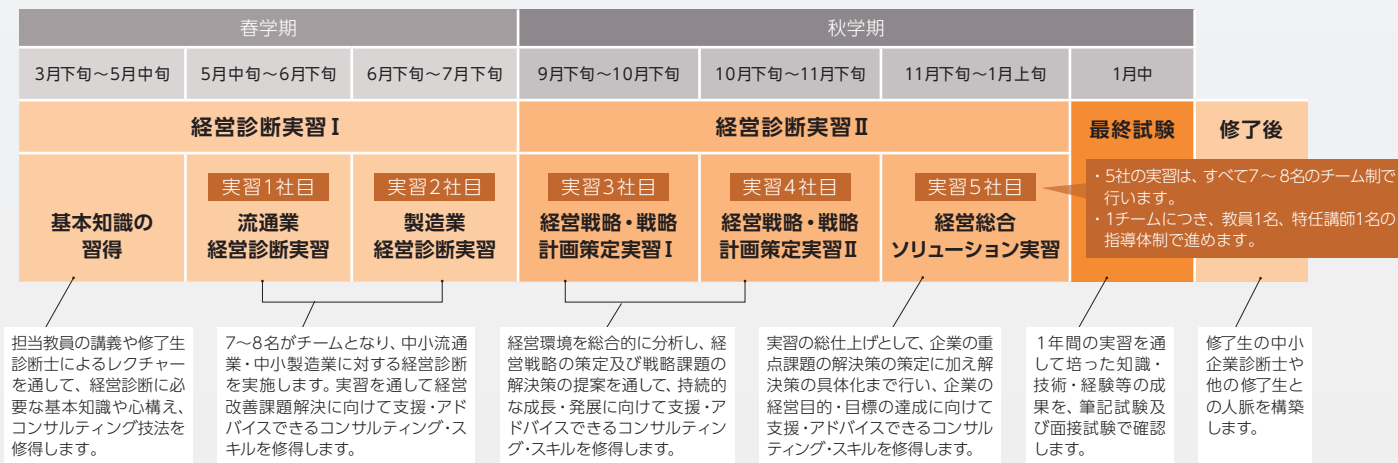
POINT 3 中小企業への実践的な助言・診断能力が身につく

本課程の大きな特色は、製造業、流通業などに加えて、サービス産業の中小企業へ1社あたり4～5週間の時間をかけて実習を行うこと。ビジネス・イノベーションを起こしている中小企業の経営者に、助言や診断を行う能力を磨くことができます。

※中小企業診断士登録養成課程の受験に必要な資格

- 登録養成課程において導入講義を実施する年度（令和7年度）またはその前年度（令和6年度）に中小企業診断士国家試験第1次試験に合格した者。
- 平成12年度以前の中小企業診断士国家試験第1次試験に合格した者。（ただし、平成13年以降の中小企業診断士国家試験第2次試験を受験した者及び平成18年4月以降独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施する養成課程又は国に登録した他の登録養成機関が実施する登録養成課程を受講した者を除く。）

経営診断実習の流れ（予定）



1年制・2年制の方も英語でのMBA授業を受講でき、取得した授業の単位は、修了単位にカウントすることができます。

目 的

グローバルMBAプログラム（以降、GMBAと記載）は、アジアの起業家、ファミリービジネス後継者、ならびにアジアにおける日本企業の核となる人材の育成を目的とする1.5年制の課程です（9月入学、翌年度3月修了）。
本コースは環境と共生するという日本の伝統的な考え方を基盤に、日本企業の培ってきた叡知や技術の教育を軸におき、また、日本人MBA学生との交流の機会を多く持つことで、日本と日本企業に精通したアジアのMBAを育成します。

養成する人材像

- 第一に日本企業のアジア進出拠点において中核となる人材の育成
- 第二にグローバル企業の中核となる人材の育成
- 第三にアジアにおいて起業する人材の育成

日本人のビジネスパーソンにとっては、「会社からの一報で海外赴任が決まり、英語もままならない状況で駐在が始まり、本人の努力と周りの助けを得て何とか駐在を乗り切る」という状況はよく見られます。

GMBAの教室ではこの状況を意図的に再現し、日本にいながら海外駐在の疑似体験が実感できます。

また、留学生と共に同じ授業をとることによって、授業内外での国際的な交流を経て、ビジネス・ネットワークづくりに大きく貢献すると考えています。

英語力の目安として、TOEIC L&R®740以上、TOEFL iBT®81以上、IELTS Academic™ 6.0以上ある方は是非チャレンジしてください。

教育課程の編成・特色

科目のデザインポリシー

日本と日本企業、日本的経営への理解を深めることを念頭におき、MBAにおいて求められる基本的な知識と世界的に共有されている知恵を提供します。また、企業現場での実践経験を得るために日本国内の企業・自治体におけるインターンシップが課されます。授業は夜間と土曜昼間に設置するため、学生は昼間に働いたり、日本語学校に通いながら通学できます。

GMBAプログラム URL <https://www.im.i.hosei.ac.jp/gmba/>



IMの注目授業レポート | 実践に即した授業を行っているのがIMの大きな特長。 数ある授業のなかから2つの内容を紹介します。



丹下 英明 教授



高田 朝子 教授



ビジネスイノベーターへの第一歩

イノベーションを多面的に考えるためのオムニバス講義

「イノベーションを起こすリーダー」—— これは、今のビジネスで求められる最も重要な力の一つになっています。急速に変化する市場環境の中で企業が競争力を維持し、成長を続けるには、常に新しい価値を創造し続ける必要があります。そのために重要となるのが「イノベーションを起こす力」です。

これら時代の要望を受け、IMは、「ビジネスにイノベーションを起こし・担う人材（ビジネスイノベーター）の育成」を大きな目標に掲げています。その中でも、最初に履修する科目である「経営イノベーション体系」は、イノベーションを実践的にマネジメントするための基盤を築く重要な講義です。この講義を通じて、イノベーションを生み出す実践力を体系的に身につけます。

■ 実践的な講義スタイル

「経営イノベーション体系」の特徴は、理論と実践を組み合わせる学習スタイルを採用している点にあります。

たとえば、丹下教授が担当する「中小企業にみるイノベーション戦略」では、まず国内外の研究成果をもとに、日本の中小企業が抱えるイノベーションの課題や国際的な競争環境について講義が行われます。その後、「中小企業がイノベーションを実現するためには、どのような戦略が有効か」といったテーマが提示され、学生同士、そして教員との間で白熱したディスカッションが展開

されます。最終的には、実際にイノベーションを成功させた中小企業の事例が紹介され、理論と実践の橋渡しを図ります。このように「理論 → 実践 → 成果」という一連の流れを通じて、単なる知識習得にとどまらず、イノベーションの基礎力を養います。

■ 異なる分野の教員によるオムニバス講義

この講義のもう一つの特徴は、異なる専門分野を持つIM教員陣がそれぞれの専門性を活かして講義を担当することです。イノベーション戦略、人的資源管理、リーダーシップ、マーケティング、中小企業経営、データ活用など、ビジネスにおける重要な領域をカバーしながら、各教員が異なる視点からイノベーションを深掘りします。これにより、学生は多面的な知識を吸収できるだけでなく、異なる専門性を持つ教員とのつながりを築くことができます。

そして「経営イノベーション体系」は、後の専門科目を理解し応用するためにも重要な基礎となります。また、修士論文に変わるプロジェクトでイノベティブな視点で研究を進めるためにも、大切な役割となっています。

このように、経営イノベーション体系は、IMが目指すビジネスイノベーターになるための第一歩となる講義で、IMの特徴的な講義となっています。



技術開発成果をイノベーションに結び付ける 戦略的マネジメントの実践

イノベーションの不確実性の壁を超える

イノベーション・マネジメント研究科は、その名の通り、イノベーションを教育研究の場であり、従来の経営学や経済学を専攻する研究科とは異なる、世界で数少ない学びの場である。もちろん、イノベーションを学ぶ社会人学生が得るべき知識は、幅広い。ただし、様々な経験を積んだ社会人学生の関心によって、その知識は異なってくるため、カリキュラムにおいては必修科目がほとんどなく、多くの科目は自由に選択できるアラカルト方式で展開されている。さらに本研究科の強みはこれらアラカルトのラインナップ、特に、イノベーション創出のためのマネジメント科目が数多く用意されている点にある。以下は、その一つである「技術イノベーション」について紹介する。

イノベーションは「技術革新」と翻訳されることが多い。もちろん、画期的な技術を開発することには大きな意義はあるものの、イノベーションは高度な技術を開発するだけでは実現できない。イノベーションに結び付けるためには、高度な戦略的マネジメントが不可欠である。本研究科が目標とするビジネス・イノベーターになるためにはマネジメント能力の習得・実践が不可欠である。本講義は企業が技術開発の成果をイノベーションに結び付けるまでの様々な不確実性を解説し、その不確実性の壁を克服するための、戦略論とマネジメント手法を提示する。

本講義は、大学院での生活に慣れ、具体的な戦略的マネジメントを深く理解したいと考え始める秋学期前半に配置されている。毎回の講義は、基本的な知識・理論を具体的なケースとともに詳細に解説する。ただ、単なる座学のみでは戦略的マネジメントを深く理解し、実践する力は養われない。そのため、講義の後半では具体的な課題に対してグループにて積極的な議論が行われる。

企業が技術開発を行い、その成果をイノベーションに結びつける過程には様々な不確実性が存在する。その不確実性を深く理解するための具体的なケーススタディとともに各回の講義では実践的な課題を提示して、グループディスカッションを通じ



玄場 公規 教授

て戦略的マネジメントを深く理解することを意図している。

まずは、初回に様々なイノベーションの不確実性を具体的なケースとともに示し、高度な戦略的マネジメントの必要性を理解する。優れた技術開発に成功している大企業であっても、様々な不確実に直面することがあり、その代表的な理論の一つとして、イノベーターのジレンマの考え方を理解し、破壊的イノベーションに対する具体的な戦略を検討していく。また、日本企業の競争力に大きな影響を与えた製品・ソフトウェアのモジュール化について詳しく説明し、今後の日本企業のイノベーション戦略を議論していく。また、従来の日本企業の自前主義を脱却するためのオープンイノベーションの重要性を提示し、外部の資源を利用するオープンイノベーション戦略を検討する。さらに技術系企業の多角化において重要な概念である技術機会という概念を紹介する。

担当者である玄場教授いわく「技術開発経験者は元より、様々なバックグラウンドを持った社会人学生が積極的に参加している。グループワークにおいて、真摯に議論することにより、新たな気づきがあり、ビジネス・イノベーターとして不可欠なマネジメント能力が育成できる」としている。本研究科の名前通りのイノベーション・マネジメントの典型的な講義の一つである。



自社のビジネス課題を素材に
イノベティブな解決力を身につける

ビジネスイノベーションを起こすといっても、必ずしも「起業」や「社内ベンチャーを立ち上げる」ということばかりではありません。「より良い人事評価の仕組みを作り上げる」、「より効果的なプロモーションの方法を実施する」、もしくは「よりリスクを回避するためのファイナンスの仕方を導入する」などのビジネスの様々な課題の解決もイノベーションのテーマとなります。

これらの課題をイノベーションとして取り組むためには、これまでに多くの企業で行われてきた「良い」とされる従来型の方法を自社に適用するだけでは十分ではありません。いかに自社にあった方法に再構築するか、もしくはそれまでにない工夫を取り入れて新しい方法を作り上げるかといった「イノベーションマインド」が必要とされます。

企業内イノベーターを目指す学生にとっては、プロジェクトのテーマに、自社のビジネス課題をそのまま設定できるのも、イノベーション・マネジメント研究科ならではの魅力です。自社の課題だからこそ、具体的に方法を考え、それに対して現場からフィードバックをもらえるでしょう。そして、その過程で様々な教員から指導を受けること、そして学生同士でもディスカッションすることで、各自の課題をイノベティブに解決する力を身につけることを目指します。

ある一日のスケジュール	5:30	● 起床後、前日の食器洗い	15:00	● 昼食
	5:50	● 長男（高校生）のお弁当作り	15:30	● 社内ワーキング参加
	7:20	● 三男（年長）の保育園送迎	16:30	● 投資検討会議前の擦り合わせ
	7:40	● 電車内で経営会議資料のチェック	17:30	● 退社後、IMへ
	8:30	● 出社	18:00	● 当日授業の予習
	8:50	● 経営会議	18:30	● 授業出席
	12:00	● 社員からの投資案件相談	23:00	● 帰宅、夕食をとりながら復習
	13:00	● 投資検討会議①	24:30	● 入浴
	14:00	● 投資検討会議②	25:30	● 就寝

どのように課題に向き合うべきかについて、
本研究科での学びが道筋と手段を示してくれた

自分自身の職場での立場を考えた時、学ぶことと同時に現実のビジネス課題を解決する事が求められていましたので、プロジェクト報告書を修士論文と位置付けるIM研究科での学びは非常に理にかなっていました。自分自身の年齢やライフステージにおけるタイミングからも、社会人として残されたキャリアにおいて「今しかない」と感じ入学を志しました。当時は現勤務先の役員に既に就任していましたが、企業役員という立場に対してはあまり魅力を感じていなかったし、重責によるプレッシャーもあり感じない鈍感な人間だったと思います。ただし仕事の裁量と影響力が拡大するにつれ、正しく組織を導きたいという思いは、以前より強くなり「よりよい組織とは何か」を求めてイノベーション・マネジメント研究科の扉を叩いたというところ です。

入学後は豊田教授が担当されるリサーチとデータ分析の全科目を履修し、組織と人材に関する科目では山田教授の人的資源管理論を始め、キャリアデザイン学専攻や政策創造専攻において複数の科目を履修するとともに、関連する論文を読み漁りました。データ分析と論文レビューの習慣は、これからも私自身を支える手段となると考えています。

「現場で起きている課題に見える化し、組織をより良い方向に導いていく」そんな自らの学びの目的は入学後により明確になり、履修したすべての科目はプロジェクトに大いに活用する事ができたと実感しています。

組織行動を専門とされる高田教授にプロジェクトのご指導をいただきアブストラクトを書き上げた時、自分がこれから組織で何をすべきかが明確になりました。

私のような所謂企業のトップマネジメント層が課題に向き合う時、まず現場で起きていることを自ら分析し、そのプロセスを含めて関係する組織のメンバーへ明示することが必要だと考えています。単なるアイデアレベルの解決策なら、寧ろ実行しない方が現場は混乱せずに済みます。どのように課題に向き合うべきかについて、本研究科での学びが道筋と手段を示してくれたのです。

どんな領域であってもデータ分析の視点は企業のイノベーションに必要であると実感しています。過去の成功体験以外に意思決定の判断材料が見出せない多くの企業でも、根拠を提供すれば組織は動き出すのではないのでしょうか。なぜなら組織のトップは常に意思決定をするための拠り所を探しているからです。

卒業後は、世の中の多くの悩める企業人のためにこの恩を返していくつもりです。

2024年度修了 岡橋 志郎 さん

大阪府出身。関西学院大学法学部を卒業後、藤和不動産(株)に入社。2011年の会社統合により三菱地所レジデンス(株)に勤務。経理部財務課に所属した2年を除く31年間は分譲マンション販売に携わっている。現在は役員として販売部門全体を掌管。部門社員約280名のバックグラウンドも価値観も多様化する中、労使コミュニケーションに積極的に向き合い、組織をより良い方向性へ導くことを目的にイノベーション・マネジメント研究科へ入学。

実践的な課題を数多く解決する演習によって
コンサルティング能力を身につける

多くのビジネスの現場から、自社内での問題解決だけではなく、外部の立場から問題を再検討してもらい、より良い方向に変革したいという声が高まっています。ただし、まだまだ外部のコンサルティングを活用している企業は限られており、今後、より身近な存在としてコンサルタントへの期待が高まってきています。

そのような中、イノベーション・マネジメント研究科は、中小企業診断士登録養成機関として第一号で登録され、いち早く社会のニーズに応じるべく、多くの中小企業診断士ならびにコンサルタントを輩出してきました。

中小企業診断士やコンサルタントとして活躍するためには、座学で学んだ知識はあまり役には立ちません。クライアントが抱える課題を明らかにし、それを具体化し、そのうえで、実行支援までを担う力が求められます。そんな力をつけるには、実際の課題を多面的な視点から検討することが必要です。本研究科の中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）では、プロジェクト・メソッドを中心に据えながら、それ以外に、5社の経営診断実習などの科目をそろえ、より本質的な課題解決ができる能力を磨きます。

修了後は、中小企業診断士として独立するだけでなく、企業の経営企画部門や地域支援機関など、多様なフィールドで活躍する修了生がいます。「現場から信頼されるプロフェッショナル」を目指す人にとって、実践的な学びが揃った環境です。

ある一日のスケジュール	7:00	● 起床、入浴	16:40	● おやつを食べながら 診断実習の調査・執筆
	7:20	● 授業の課題	18:35	● 選択授業 (ビジネスデータ分析)
	8:00	● 登校しつつ予習復習	22:30	● 買い物、帰宅、夕食
	8:50	● 授業（人的資源管理論）	23:00	● 翌日の授業の準備
	12:30	● 昼食を食べながら グループワーク	23:30	● 就寝（資料作成が佳境の ときは追加で作業あり）
	13:10	● 授業（財務会計論）		

経営の視点から地域医療の未来を拓く

私はこれまで地域医療の前線で働いていましたが、社会が大きく変化する中、数十年後も安心して医療を提供できるのか不安に思うことがありました。財務面のほか、深刻な人手不足、IT化の遅れなど、医療機関の経営を取り巻く状況は順風満帆ではありません。そこで、これらを解決する手がかりを探すため、あらゆる資源を総合的に管理する視点が学べる場所を求め、経営について学ぶことを決意しました。

経営について学ぶ道はたくさんあれど、ビジネスの経験の乏しい私が少ないリスクで実践的に経営を学ぶ方法は限られています。イノベーション・マネジメント研究科MBA特別プログラムのカリキュラムやシラバスを見て、そうそうたる教授陣、多様な選択授業、診断実習での実践経験などに強く魅力を感じ、志望しました。

入学後は、どの授業も楽しく学ばせていただきましたが、特に印象に残っているのは計5回の経営診断実習です。実習先企業の皆様にどのような価値が提供できるか考え、自分の足を使って調査をおこなったり、膨大なデータを分析したりと実践的に学ぶことができました。調査の手法はプロジェクトにも応用できました。経営者の方々に直接プレゼンテーションをおこなう報告会では、経営者の方々が、ときに厳しく、ときに温かいコメントをくださり、たくさんの学びと勇気を得ることができました。

そのほか、同級生とビジネスコンテストに挑戦したりボードゲーム製作に取り組んだり、授業外の活動も非常に充実しており、取り組みの中で新たな視点やスキルを得ることができました。授業の内容そのものはもちろんですが、一緒に1年間を過ごした仲間とのつながりこそが、かけがえのない財産です。

修了後は地域の総合病院で新たな診療科の立ち上げに取り組んでいます。慌ただしい日々ではありませんが、以前よりも視点が広がり、大学院で学んだことがとても活かしています。また、プロジェクトのテーマである「健康経営」についても、地域における推進に取り組んでいこうと考えています。医療者も、患者様も、健康な住民の方々も、すべての人が健康に暮らせる未来を実現させるため、仲間たちとイノベーションを生み出し続けます。

2024年度修了 大須賀 穂高 さん

福島県出身。総合内科医（内科専門医）。福島県立医科大学医学部医学科を卒業後、主に福島県内で5年間の診療に携わり、地域の診療所から救命救急センターまで幅広く現場を経験。2024年度イノベーション・マネジメント研究科に入学、ビジネスプラン型優秀プロジェクト賞受賞。現在は、総合病院で新規診療科立ち上げに携わる傍ら、地域における「健康経営」の普及に取り組む。

最大の特徴は「プロジェクト・メソッド」：
起業を実現するためのノウハウを蓄積

社会課題の解決は、今あるビジネスや制度の変革によるものだけではありません。「新しいビジネスを興すことで課題解決を」というニーズがますます高まっています。この点から、イノベーション・マネジメント研究科は、起業家の養成にも力を入れています。

入学後すぐに学ぶのは、財務、マーケティング、戦略、組織、人事といったMBAの基本分野。これらを集中的に学び、基礎力を身につけます。その後、アントレプレナーを目指すことに必要な、企業家精神の理解、事業機会の発見や構想力、ビジネスモデルの作成などを多くの科目で学んでいきます。また、投資家や支援機関・コンサルタントの視点からアントレプレナーを捉える科目も充実しています。

そして、これらを統合した集大成の科目が「プロジェクト」。起業を目指す学生は1年もしくは2年をかけて、イノベティブなビジネスプラン（事業計画）を作成していきます。過去に起こった事例を研究することも重要ですが、同時に、プロジェクトでは、これから起こる未知のビジネスの可能性を探索し、実現可能性を高めていくための調査、分析、戦略策定等をしていきます。幅広い事業分野に対応する講師陣が、学生と密接な関係を築いて指導を行うだけでなく、実際に投資家へプレゼンできるレベルのストーリーへと練り上げます。

もう一つ、本研究科の魅力は、修了生に起業家が多いだけでなく、中小企業診断士などコンサルタントとして活躍している修了生が多いことにあります。在学中から先輩起業家やコンサルタントにコンタクトを取れる機会も多く、起業するにあたっての具体的なアドバイスが得られるチャンスが魅力です。

ある一日のスケジュール	4:00 ● 起床	18:00 ● 退社
	5:00 ● レポート&学会準備	19:00 ● ゼミ
	8:00 ● 朝食	23:00 ● 帰宅 (※帰宅中の電車で復習)
	9:00 ● 出社	24:00 ● 就寝

interview

君たちはどう生きるか。そんな問を見つめ直す環境がここにはある

イノベーション・マネジメント研究科に入学した最大の決め手は、「プロジェクト・メソッド」です。IM研究科では、従来の大学院における修士論文の代わりに「プロジェクト・メソッド」があります。私の場合、進学動機が事業承継であり、それも昨今の目まぐるしい時代の変化に対応した、サステナブルで革新的なモデルに事業モデルを柔軟に変容させていくことも求められていました。このことから、即実践につながるカリキュラムである必要がありました。この私のニーズに「プロジェクト・メソッド」は答えてくれると信じ、入学しました。実際、プロジェクト・メソッドによるプロジェクトと研究の両輪を回す経験をするとは、この両者が切っても切れない関係性にあり、思考プロセスの回路も一緒にあることを実感しました。今では、「研究ないところにイノベーションなく、実践ないところに研究はない」と言い切れます。

特に印象に残っている講義は、連続起業家で本研究科の兼任講師である山本晋也先生がおこなう「グローバルビジネス経営論」です。山本先生は、Web3.0/DAO（分散型自律組織）による共創イノベーションのための社会実験コミュニティ DICT –Design, Innovation, Co-creation, Technology–の創設者であり、グローバルに展開を進めている実践者でもあります。この講義で、「競争」ではなく「共創」による価値創造が重要であり、時代は中央集権により統合されるモデルから自律分散によって融合するモデルへと変容しているという実践者ならではの知見は、目からうろこでした。この講義を通して学んだことは、私の起業家精神の核であり、今の時代に即した柔軟かつサステナブルな組織づくりの基礎となっています。

私は、優秀プロジェクトにも選出された「看護師シェアリングエコノミーの実証～分散型自律組織：Patient Centricity（患者中心）への回帰～」の検証を継続しています。また、このアプローチ方法を保育事業にも横展開し、別領域でもさらなる検証を続けています。

このプロジェクトを通して、看護師が看護師本来の感性を取り戻し、活き活きと社会のため、市民のために働くことは、日本全体の大きな原動力になることを確信しました。今後は、さらなる実践的検証を続けながら、「人の幸せ」についてWeb3.0/DAOという視点とコミュニティマネジメントの視点から探求していきたいと考えています。在学中の主な業績は以下のとおりです。実践的社会学研究のための訪問看護ステーションのスタートアップ企業創業。DICT presents; DICT Project Pitch 2024 Yoyogi –アイデアが深化する一日– 登壇。研究・イノベーション学会（国内学会）日本語抄録、口頭発表。日本医療経営学会（国内学会）日本語抄録、口頭発表。ISPIM –the International Society for Professional Innovation Management–（国際学会）英語論文、口頭発表。Tohoku University Smart Aging Research Center presents; Tohoku University Entrepreneur Training Camp in 2025 登壇。

2024年度修了 羽生田 悠 さん

2016年に北里大学看護専門学校を卒業。その後は、北里大学病院へ入社。救急外来・ICU等で従事し、ドラマティックな医療現場を経験。新人教育にも携わる。2021年に就業しながら通信大学へ進学し学位取得。義母の保育園を承継するために、2023年に前職を退職しイノベーション・マネジメント研究科に入学。その後は、保育園の運営とヘルスケア事業を行うスタートアップ企業を創業。2024年度、特定ビジネス課題解決型優秀プロジェクト賞受賞。

過去の経験を再構築し、
自分だけのキャリアを描く

キャリアの形は一つではありません。むしろ今の時代、変化を前提に、複数の選択肢を柔軟に組み合わせていく「多様なキャリアパス」こそが、持続的な成長のカギとなっています。イノベーション・マネジメント研究科には、そうした変化に対応できる「実践知」を深く、そして広く学べる環境があります。

たとえば本研究科では、ビジネス現場に即した演習科目やプロジェクト型の学びを通して、「自ら課題を設定し、それに対して解を出していく力」を育みます。中でも特徴的なのが「プロジェクト・メソッド」。これまでの業務経験をもとに、自身の関心や課題意識に沿ったテーマで研究・実践に取り組むことができ、結果的にそのプロセスが、今までと違った角度からものを見る契機になり、自らの可能性を広げるきっかけとなります。

また、「起業・新規事業」「中小企業支援」「企業内イノベーション」など、進路の方向性も多様です。本研究科では、これらを明確に分類するのではなく、互いに学び合い、掛け合わせることができる環境が整っています。異なる志向の学生同士が刺激を与え合い、視野を広げる場面が日常的にあります。

過去のキャリアを活かし、自らの強みを再発見するプロセスを通じて、「こうありたい自分」に向かって、道を描き直すことができるのです。

ある一日のスケジュール	7:00 ● 起床	13:00 ● 診断実習 調査分析の共有
	8:00 ● 移動	14:00 ● 診断実習 班員とのディスカッション
	9:00 ● 診断実習 個人作業（報告書執筆）	19:00 ● プロジェクトデザイン・ マネジメントの授業
	11:00 ● マーケティングの グループMTG	22:30 ● 帰宅
	12:00 ● 昼食をとりながら、 人的資源管理のレポート作成	23:00 ● ゼミの準備
		24:30 ● 就寝

interview

イノベーションの現場で挑戦し続ける

大学卒業後、食品商社、IT企業、大企業から小規模企業まで、計4社で勤務しました。中小企業診断士を目指したきっかけは、自身のキャリアが十分に積み上がっていない不安からでした。法政大学ではMBAの取得も可能であり、実務的かつ理論的な学びを深められる点に魅力を感じました。診断実習に加え、MBAの授業からも多様な知見を得ました。

特に印象に残っているのは、丹下英明教授の「創業・ベンチャー起業論」です。グループでのビジネスプラン発表に向けて、私たちは中高生向けの金融教育教材を開発し、営業活動を経て、中学校や高校の授業で実践する機会を得ました。顧客インタビューを重ねながら、顧客像やサービス内容を何度も見直し、ビジネスプランを磨き上げる過程を体感しました。この経験を通じて、起業や新規事業においては、綿密な計画以上に「迅速に失敗し、そこから学ぶこと」の重要性を痛感しました。

また、転職回数が多いことから専門性に自信を持てずにいた私にとって、「プロジェクト」は自身の強みを見出す機会となりました。大塚有希子准教授のご指導のもと、「イノベーションアイデア発想モデルの開発」をテーマに研究を進め、在学中に10社でワークショップを実施し、学外での学会発表では学生賞を受賞しました。この実績が評価され、研修講師や新規事業立ち上げ支援の仕事のオファーにもつながりました。入学前には想像もしていなかった未来を切り拓く契機となりました。

休職して入学した私は、修了後に独立する道を選びました。今後は中小企業診断士としての活動に加え、コンサルタント、講師業、博士課程への進学など、新たな進路が広がっています。さらに、志を同じくする同期とともに起業の計画も進行中です。自ら多様な選択肢を創出し、主体的に道を切り拓いていくことは、まさにイノベティブな姿勢を体現するものと考えています。

私がこうして変わることができたのは、挑戦を後押ししてくださる教員、修了生、そして互いに切磋琢磨できる同期の存在があったからです。本研究科では、「やってみよう」「もっとこうしたら」と、建設的な意見が活発に交わされます。失敗から学ぶことは、実践的な授業を通じて体得しました。

法政大学が掲げる「自由を生き抜く実践知」は、この学びの場に確かに根付いています。今後も、イノベーションが生まれる場に身を置き続け、学びを積み重ねながら、社会に貢献していきたいと考えています。

2024年度修了 熊谷 彩乃 さん

北海道出身。2015年に津田塾大学 学芸学部 国際関係学科卒業、北海道のコンビニエンスストア、株式会社セコマに入社。北米・中南米産の食品原材料の輸入業務、現地LA海外法人にて勤務。転職後、大企業の貿易事務職、小規模食品商社にて営業職、IT企業にて中小企業向け業務改善ソリューションの提案営業を経験。2024年、イノベーション・マネジメント研究科に入学、特定ビジネス課題解決型優秀プロジェクト賞受賞。

教員紹介

実務家から研究者まで、IMはさまざまな教員を揃え、実務に強い人材の育成を図っています。
IMの教員を紹介しましょう。

◆専任教員

石島 隆 教授

1979年公認会計士第2次試験合格。1980年中央大学商学部会計学科卒、公認会計士業務等に従事後、大阪成蹊大学助教授を経て、2007年当研究科教授。博士（創造都市）。三栄源工フ・エフ・アイ（株）社外監査役、樂電信用金庫非常勤理事、（株）未来脳脂社外取締役。

担当科目
財務会計論、管理会計論、事業リスクマネジメントと内部統制、会計入門、プロジェクト

② 企業にはガバナンスの抜本的な改革とマネジメント及びコントロールの継続的な改善が求められています。企業経営を支える組織・制度、業務プロセスの総合的な改革・改善とテクノロジーの有効活用にみなさんと取り組むことを楽しみにしています。

内部統制 リスクマネジメント IT利用監査 会計情報システム



岩瀬 敦智 准教授

立教大学法学部卒業後、(株)高島屋入社。退職後、法政大学大学院IM研究科修了を経て、経営コンサルタント・中小企業診断士として独立。早稲田大学エクステンションカレッジ講師、流通科学大学非常勤講師などを歴任。2015年より兼任講師、2023年より現職。

担当科目
経営診断実習Ⅰ、経営診断実習Ⅱ、経営診断特講Ⅰ、経営診断特講Ⅱ、プロジェクト

① IM研究科を修了後、コンサルタント・中小企業診断士として小売業の売上向上、人材育成、新規事業開発等の支援を行ってきました。小売業の売上好調のKSFは、地域性を捉え新たな顧客価値を創造できる人材育成。その想いの下、流通マーケティング、地域活性化、社会人教育を複眼的に研究しています。

流通マーケティング 社会人教育 地域活性化



大塚 有希子 准教授

大阪教育大学教育学部卒業、慶応義塾大学大学院システムマネジメント・デザイン研究科後期博士課程単位取得満期退学。博士（システムデザイン・マネジメント学）。株式会社幸福銀行、株式会社富士ゼロックス総合教育研究所、東京都立産業技術大学院大学・慶応義塾大学大学院非常勤講師等を経て、2022年より現職。

担当科目
経営情報戦略論、プロジェクト・デザインマネジメントⅠ、プロジェクト・デザインマネジメントⅡ、ITケース研修、プロジェクト

① 既存の枠を超えたイノベティブな発想を、システム（しくみ）として組み立てて戦略をデザインし、プロジェクトマネジメントによって実現させます。 ② 新規ビジネスのみならず、既存ビジネスの改革や発展など、ワクワクするようなビジネスモデルや組織を創造する方法を学んでみませんか。

プロジェクト・マネジメント ビジネスアナリシス複数例 戦略マネジメント 情報化戦略企画 ファイナンス・マネジメント



玄場 公規 教授

1990年東京大学工学部卒業。同大学工学系研究科博士課程修了、学術博士。三和総合研究所勤務後、東京大学アクセンチュア寄付講座助教授、芝浦工業大学助教授、立命館大学教授を経て、2015年より現職。

担当科目
経営イノベーション体系、経営戦略論、技術イノベーション、プロジェクト

② イノベーションを創出するためには、高度な戦略的マネジメントが必要不可欠です。本研究科においてマネジメントに関する多様な知識・理論を習得し、イノベーション創出の実践力を磨いて頂ければと考えます。

経営戦略 イノベーション戦略 科学技術政策



五月女 健治 教授

大阪大学基礎工学部情報工学科卒業後、1979年三菱電機（株）入社、情報技術総合研究所を経て、2003年法政大学大学院情報科学研究科ITPC教授、2004年より現職。2008年工学博士（静岡大学）。

担当科目
モバイルプログラミング、モバイルプログラミング（アドバンス）、データベースの基礎、クラウドコンピューティング、プロジェクト

① かつて、ITはmake or buyを選択しました。現在は、クラウドとオープンソースもその選択肢に加わりました。エンタープライズでもスモールビジネスにおいても、ITの正しい選択ができるよう、IT活用のための有用な情報を提供します。

企業情報システム モデル指向アーキテクチャ コンパイル・コンパイラ プログラミング言語



坂本 和子 教授

法政大学大学院社会科学部研究科博士前期課程修了、横浜国立大学大学院国際社会科学部研究科博士後期課程修了、博士（経営学）。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得満期退学、日本電気株式会社を経て、2004年京都工芸繊維大学工芸科学研究科准教授、2016年豊橋技術科学大学教授、2022年より現職。

担当科目
Applied Marketing、マーケティング論、消費者行動論、ビジネスイノベータ育成セミナー、プロジェクト

② 現代社会においては、問題を「解決」するだけでなく、問題そのものを「発見」する能力が必要とされています。その一助として、デザインや技術など、多面的視点や幅広い知見を醸成するサポートを行っています。

マーケティング デザインマネジメント 消費者行動論 国際比較



高田 朝子 教授

モルガン・スタンレー証券会社勤務を経て高千穂大学経営学部専任講師、助教授。2008年より法政大学大学院准教授。2011年より教授。Thunderbird国際経営大学院修士課程、慶応義塾大学大学院経営管理研究科修士課程、同博士課程修了、博士（経営学）。

担当科目
経営イノベーション体系、リーダーシップ論、ファミリー・ビジネス&ファミリーオフィス、ビジネスリーダー育成セミナーⅡ、変革とマネジメント、Business Practice in Japan、Project 1-A(Internship)、プロジェクト

② ビジネススクールでの学びはこれまでの人生の棚卸しをすること、そして今後の人生の指針をえるための鍛錬だと思っています。組織と人はビジネスの世界では不可欠な要素です。是非汗を流して、時間を費やしてさまざまな学びを得てください。

組織行動 リーダーシップ ファミリービジネス



丹下 英明 教授

1995年東北大学経済学部卒業。中小企業金融公庫、日本政策金融公庫総合研究所を経て、2017年多摩大学経営情報学部准教授。2019年より現職。2016年博士（経済学、埼玉大学）。中小企業診断士。

担当科目
経営イノベーション体系、中小企業戦略、創業・ベンチャー起業論、経営診断実習Ⅱ、プロジェクト

② 中小・ベンチャー企業を取り巻く環境は大きく変化しています。プロジェクトや講義を通じて、中小・ベンチャー企業は、これからの経営にどのように取り組むべきか、一緒に考えましょう。

中小企業経営 起業 国際経営



都丸 孝之 教授

富士ゼロックス株式会社に事業計画、製品設計、生産、調達業務を経験。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科、城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科教授を経て、2024年より現職。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科博士課程修了。博士（システムエンジニアリング学）。

担当科目
生産マネジメント論、中小企業総合経営論Ⅱ、サプライチェーンマネジメント、デザイン思考とビジネス創出、プロジェクト

① 皆さんの大学院生活で意識して欲しいことは次の2つです。1つめは「木を見て森も見る」ことです。高い視点で物事を全体的に俯瞰しながら細部も観ることです。2つめは大学院で学んだことを現場で実践することです。学びと実践を繰り返すことで、皆さんの能力が格段に向上すると思います。

製品企画設計 新規ビジネス創出 ソーシャルイノベーション



豊田 裕貴 教授

2004年法政大学大学院社会科学部研究科博士課程修了。博士（経営学）。同年、多摩大学経営情報学部にて助教授として着任。同大学経営情報学部及び大学院にて教授を経て、2015年より現職。専門はマーケティング。

担当科目
経営イノベーション体系、マーケティングⅠ（マーケティング戦略）、マーケティングⅡ（データドリブンマーケティング）、リサーチ技法、ビジネスデータ分析基礎、データ分析リテラシーⅠ（EXCEL）、データ分析リテラシーⅡ（R言語）、ビジネスデータ分析実践Ⅰ（仮説検証とアンケート設計）、ビジネスデータ分析実践Ⅱ（予測モデルの構築）、プロジェクト

② ビジネスを考える上で、マーケティング思考は強力な武器になります。プロジェクトや講義を通じて、マーケティング戦略観と戦術立案力、そしてそれをストーリーにまとめる力の取得を目指します。

マーケティング マーケティングサイエンス ビジネスデータ分析



- ① 取り組んでいる研究分野の実際、あるいは魅力についての紹介
- ② 入学を志す方へのメッセージ

並木 雄二 教授

法政大学大学院修士課程修了。(株)セブン・イレブン・ジャパンに入社し、加盟店の経営指導を歴任。(学)法商学園でビジネス教育研究所を立ち上げ、経営コンサルタントとして独立。企業や行政組織の業務改革などに取り組み、指導店舗は3,000店を超える。2007年客員教授。2010年より現職。

担当科目
コンサルティング技法、中小企業総合経営論Ⅰ、経営診断実習Ⅰ、経営診断実習Ⅱ、経営診断特講Ⅰ、プロジェクト

② 経営コンサルタントの仕事の面白さを知って欲しい。企業の難題に取り組み、解答を出した時の達成感。そして「ありがとう」と言われた時の大きな喜び。仕事冥利に尽きる瞬間があります。一緒に夢を追いかけましょう。

小売経営 コンサルティング技法 流通マーケティング戦略 中小企業経営



村上 健一郎 教授

1981年九州大学大学院工学研究科修了。2003年博士（情報科学、早稲田大学）1981年から2004年までNTT研究所、2004年より現職。現在、フードサービス関連の社団法人OFSCの代表理事も兼務。

担当科目
ロジカル・シンキング、デジタル・マーケティング、プロジェクト

② ビジネススクールで経営学を学ぼうと思った時点で、すでにみなさんはイノベータになっています。そんなみなさんの自己実現を達成するために、経営学の基礎知識やビジネスデザインのスキルの獲得を多角的に支援します。

スタートアップ インターネット 情報科学



山田 久 教授

京都大学経済学部卒業後、1987年住友銀行（現三井住友銀行）入行。1993年日本総合研究所出向。同研究所調査部長／チーフエコノミスト、理事、副理事長を経て、2023年より現職。京都大学博士（経済学）。

担当科目
人的資源管理、人的資源管理論Ⅰ、ヘルスケアマネジメント、プロジェクト

① 人口減少・高齢化が進み、デジタル化・脱炭素化で世界に後れを取るなか、いまの日本には社会課題が山積しています。そうしたなかで自らの想いに従って課題を発見し、経験・知見・人脈を駆使し、さらにそれらを広げながら有効なソリューションを創造することが、世の中を元気にすることにつながります。そんな志を具体的な形にする術を身に着けたイノベティブな人材が、本学から次々に生まれることを期待しています。

人的資源管理 労働経済論 日本経済論



松本 敦則 教授

法政大学経済学部卒業後、第一勧業銀行（現・みずほFG）に入行。退職後、法政大学大学院に入学、イタリア・ボローニャ大学留学、在ミラノ日本総領事館専門調査員、静岡県立大学経営情報学部、ミラノ大学客員研究員を経て現職。

担当科目
地域マネジメント、プロジェクト

① イタリアの産業集積や中小企業政策の研究をしています。現在は日本とイタリアの比較研究をしながら、東京都三鷹市や東京都台東区など政策の現場に関わっています。一緒に現地調査に行きましよう。

イタリア経済論 中小企業論 地域経済論



山崎 泰明 教授

1985年法政大学経済学部卒業、2008年明治ビジネススクール修了。2014年立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科博士課程修了。博士（技術経営）。三洋証券(株)、いちよし証券(株)代表執行役社長、IBS(株)代表取締役会長を経て、2021年より現職。

担当科目
ファイナンスⅠ、ファイナンスⅡ、収益モデルの構築、プロジェクト

② 「事業アイデア」を「事業機会」に結びつけることがビジネス化には必要不可欠です。その実現のために、「企業経営の実務とアカデミックの融合」という観点から学んでいただければと考えます。

ファイナンス ファミリービジネス経営 投資理論 起業論



PECHTER, Kenneth 教授

東京大学教授、慶応義塾大学訪問教員、DLE Vice President, Bellrock Media Vice President, KEEN ONLINE Manager などを経て、2016年より現職。02年よりクリエイティブ産業の企画を手掛ける。東京大学PhD（イノベーション・マネジメント）。GIMBAプログラム長。

担当科目
Business Practice in Japan, Opportunity and Entrepreneurship in Japan, Media and Entertainment, Service Management in Japan, Project 1-A(Internship), Project 1-B(Field Research), Project 2-A(Internship), Project 2-B(Field Research)

① イノベーション経営・政策、クリエイティブ産業や国際事業の分野において、特に技術革新と組織構造との相互関係という課題を取り上げております。

イノベーション経営・政策
Innovation Policy & Management クリエイティブ産業
Creative Industries 国際事業
Global Business 国際教育
Global Education



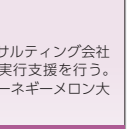
◆プロジェクト担当教員

大澤 裕 兼任講師

2000年に米国シアトルにおいてビジネスコンサルティング会社起業。中小企業の海外展開に関する戦略構築、実行支援を行う。海外販売代理店・パートナー網の構築が専門。カーネギーメロン大学MBA。

担当科目
Marketing in Japan、プロジェクト、Project 2-A(Internship)

② 自身のコンサル会社の起業・運営経験をもとに指導していきます。特に将来、海外関係の仕事に興味がある方をお待ちしております。具体的なアイデア・プロジェクトがあれば尚可です。

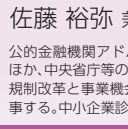


佐藤 裕弥 兼任講師

公的金融機関アドバイザー、JICA専門家、シンクタンク研究員のほか、中央省庁等の産業政策に関する審議会委員を多数歴任。政府規制改革と事業機会の創出に関するコンサルティング・研究に従事する。中小企業診断士。

担当科目
公共・非営利・社会的企業経営論、経営診断実習Ⅰ、経営診断実習Ⅱ、プロジェクト、Project 2-B(Field Research)

② 何事にも原理原則があります。さらに、そこに実務と経験を加えなければ突き抜けた成果は得られません。IMIには、それらを融合させる学びの場があります。10年の差をつけるに値する濃密な1年が未来を切り拓きます。

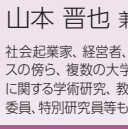


山本 晋也 兼任講師

社会起業家、経営者、投資家、Startup Mentor、社会物理学者。ビジネスの傍ら、複数の大学で客員教授・兼任講師として、イノベーション政策に関する学術研究、教育活動に従事。中央政府各省庁の政策検討委員会委員、特別研究員等も歴任。専門は、化学、分子生物学、技術・革新的経営。

担当科目
グローバルビジネス経営論、イノベーション・マネジメント、Global Management、プロジェクト

② 新しい価値を創造する企業や組織をどう立ち上げるか？ web3時代では、この問いに対する答えを体験しながら学び、そのための仲間やメンターを学内外で増やすことが重要です。共創イノベーションのためのDAO（自律分散型組織）コミュニティを代々木で運営しながら、社会実験も推進しています。一緒に新しい何かを創造しましょう！

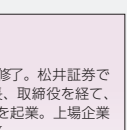


渡邊 将志 兼任講師

慶應義塾大学総合政策学部卒業。早稲田MBA修了。松井証券で経営企画課長、広報IR担当部長、事業開発部長、取締役を経て、経営戦略／IR専門の経営コンサルティング会社を起業。上場企業2社（エプコ、ニチリョク）の社外取締役も兼務。

担当科目
プロジェクト

② 私自身、大学院時代にプロジェクトで研究したことを、その後のビジネスやキャリア形成（事業開発リーダー、経営コンサルティング）に役立てた経験があります。新たな未来につながるプロジェクトと一緒に取り組みましょう。



2025年度 時間割（MBAコース）

※中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）の時間割は、ホームページをご確認ください。
※年度により開講科目や時間割が変更となることがあります。

	春学期 2025年4月7日(月)～7月22日(火)		春学期前半 4月7日(月)～6月3日(火)／春学期後半 6月4日(水)～7月22日(火)				
	1時限 8:50～10:30	2時限 10:40～12:20	3時限 13:10～14:50	4時限 15:00～16:40	5時限 16:50～18:30	6時限 18:35～20:15	7時限 20:20～22:00
月						リサーチ技法（豊田） 前半②	
						ビジネスデータ分析基礎（豊田） 後半②	
火						ロジカル・シンキング（村上） 前半②	
						ファイナンスⅠ（山崎） 前半②	
						ファイナンスⅡ（山崎） 後半②	
						Applied Marketing（Sakamoto） 後半② GMBA	
水						経営イノベーション体系（玄場・高田・丹下・豊田） 前半②	
						エスノグラフィのビジネス応用（石山） 前半②	
						Strategic Organizational Management (Corporate Governance and Ethics) ★（Nichols） 前半② GMBA	
						変革とマネジメント (ビジネスリーダー育成セミナーⅡ)（高田朝） 後半②	
						地域マネジメント（松本） 後半②	
						The Foundations of Corporate Finance in a Global Context（Gordon） 後半② GMBA	
木						リスクマネジメント概論（指田） 前半②	
						デザイン思考とビジネス創出（都丸） 前半②	
						Media & Entertainment（Pechter） 前半② GMBA	
						ビジネスと租税法（金田） 後半②	
						リテールサイエンスとAI（山下） 後半②	
						Opportunity and Entrepreneurship in Japan（Pechter） 後半② GMBA	
金						モバイルプログラミング（五月女） 前半②（オンデマンド型でも受講可能）	
						モバイルプログラミング（アドバンス）（五月女） 後半②（オンデマンド型でも受講可能）	
						コミュニケーションマネジメント（浦上） 後半②	
土	1時限 9:00～10:40	2時限 10:50～12:30	3時限 13:10～14:50	4時限 15:00～16:40	5時限 16:50～18:30	6時限 18:35～20:15	7時限 20:20～22:00
	マーケティングⅠ（マーケティング戦略）（豊田） 前半②		経営戦略論（玄場） ④		Leadership, Strategy, and Entrepreneurship（Connor） 前半② GMBA		
	プロジェクト・デザインマネジメントⅠ（大塚） 後半②		Japanese Production Management and Supply Chain Management（T.Hasegawa） 前半② GMBA				
	マーケティングⅡ（データドリブンマーケティング）（豊田） 後半②		Entrepreneurship and New Business Creation （Komura） 後半② GMBA				
	Business Communication in Japanese Organization ★（Ichimori） 後半② GMBA						

Full year			
プロジェクト（1年制）※	プロジェクト（2年制の2年生）※	Project 2-A (Internship) ★ （Pechter/Osawa） ⑥ GMBA	Project 2-B (Field Research) ★ （Pechter/Satoh） ⑥ GMBA

※プロジェクトについては、原則、①平日6～7時限、②土曜日、③木曜4～5限（1年制のみ）のいずれかに開講していますが、具体的な開講日時は、担当教員に確認してください。

Spring Semester	Spring Semester Second Half
データ分析リテラシーⅠ（EXCEL）（豊田） ①（オンデマンド）	会計入門（石島） 後半②（オンデマンド）

基礎科目	応用科目
専門科目	GMBA科目／GMBA Course

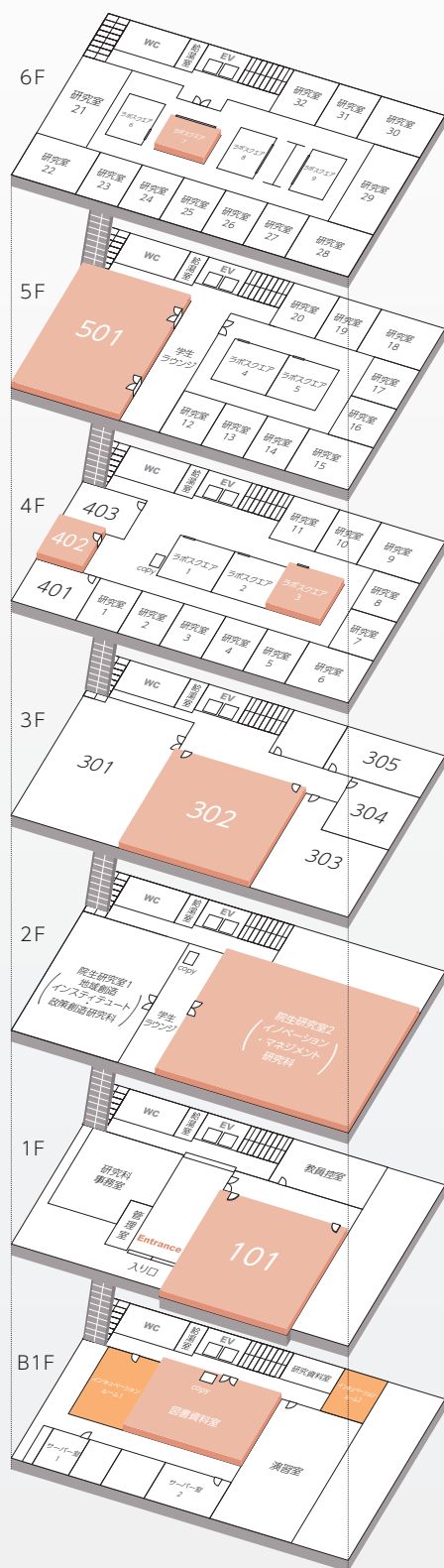
②：2単位 ④：4単位 ⑥：6単位
★ GMBA required course

	秋学期 2025年9月18日(木)～2026年1月10日(土)		秋学期前半 9月18日(木)～11月8日(土)／秋学期後半 11月10日(月)～2026年1月10日(土)				
	1時限 8:50～10:30	2時限 10:40～12:20	3時限 13:10～14:50	4時限 15:00～16:40	5時限 16:50～18:30	6時限 18:35～20:15	7時限 20:20～22:00
月						デジタル・マーケティング（村上） 前半②	
						[法政IPO会寄附講座] スタートアップの創業からIPOまで（伊藤） 前半②	
						Innovation in Global Business（Bierer） 前半② GMBA	
						プラットフォーム戦略（長谷川） 後半②	
						ガバナンス経営論（ステークホルダーと企業価値経営）（関） 後半②	
						Human Resource Management in Japan（Lane） 後半② GMBA	
火						財務会計論（内山） 前半②	
						リーダーシップ論（高田朝） 前半②	
						Management Strategy ★（Kurihara） 前半② GMBA	
						コーチング（稲川） 後半②（オンライン）	
						Financial Management（Analyzing and Leveraging Financial Information）（Gordon） 後半② GMBA	
						ヘルスケアマネジメント（山田敦） 前半②	
水						ビジネスデータ分析実践Ⅱ（予測モデルの構築）（豊田） 前半②	
						ファミリー・ビジネス&ファミリーオフィス（中島・高田朝） 前半②	
						Logical Thinking vs Intuition（Nishide） 前半② GMBA	
						収益モデルの構築（山崎） 後半②	
						【FDUA寄付講座】DXとデジタルガバナンス （AIとDXによる持続可能なビジネスデザイン）（大久保・石島） 後半②	
						ビジネス活用のためのPython基礎（飛田） 前半②	
木						公共・非営利・社会的企業経営論（佐藤） 前半②	
						Managing Talent（Toyoshima） 前半② GMBA	
						デジタル広告論（高田勝） 後半②	
						グローバルビジネス経営論（山本） 後半②	
						Service Management in Japan（Pechter） 後半② GMBA	
						データベースの基礎（五月女） 前半②（オンデマンド型でも受講可能）	
金						事業リスクマネジメントと内部統制（石島） 前半②	
						クラウドコンピューティング（五月女） 後半②（オンデマンド型でも受講可能）	
						管理会計論（石島） 後半②	
						Marketing in Japan（Osawa） 後半② GMBA	
	1時限 9:00～10:40	2時限 10:50～12:30	3時限 13:10～14:50	4時限 15:00～16:40	5時限 16:50～18:30	6時限 18:35～20:15	7時限 20:20～22:00
	ITCケース研修（大塚） ④ ※前半：1～2時限、後半：3～4時限				Open Innovation（Radhakrishnan Nair） 前半② GMBA		
土	人的資源管理論Ⅰ（山田久） 前半②		技術イノベーション（玄場） 前半②				
	Business Practice in Japan ★（Pechter/Takada） 前半② GMBA		Japanese Management ★（T.Hasegawa） 前半② GMBA				
	企業倫理（碓井） 後半②		ビジネスイノベーション育成セミナー（坂本） 後半②				
	Global Management ★（Yamamoto） 後半② GMBA		Accounting（Torikai） 後半② GMBA				

Fall Semester		
Project 1-A (Internship) ★ （Pechter/Takada/Hug） ⑥ GMBA	Project 1-B (Field Research) ★ （Pechter） ⑥ GMBA	データ分析リテラシーⅡ（R言語）（豊田） ①（オンデマンド）

施設紹介

メイン校舎である新一口坂校舎は、一口坂に面した地域創造インスティテュート・政策創造研究科と共用の施設です。4階と6階に研究室、ミーティング用のラボスクエアがあり、教育環境が充実しています。



6F ラボスクエア6～9 教員研究室



ラボスクエア7

5F 501教室



501教室 イベントなどにも対応した多目的室

4F 401～403教室 ラボスクエア1～3 教員研究室



402教室
主にゼミナール形式の授業に使用される小教室（定員18名）



ラボスクエア3
研究室前に設けたオープンな会議スペース。プレゼンの準備や打ち合わせ、教授への相談などに利用されています。

3F 301～305教室



302教室
各席に電源・LANポートを設置し、マルチメディア対応の講義型大教室（定員63名）。

2F 院生研究室2 ※自習ブースはフリーアドレス制への移行を検討中。



院生研究室2
個人の自習ブースとロッカーを設けており、夜間や休日でも利用可能です。

1F エントランス 101教室 管理室
教員控室 事務室



101教室
活発な討論を促す馬蹄型ローマン式教室（定員60名）。マルチメディア対応

B1F 図書資料室
インキュベーションルーム サーバー室



図書資料室
ビジネス・IT系や法律系の書籍、科学雑誌など「ベシック」「アドバンス」「トレンド」が把握できます。

インキュベーションルーム

在学中に特に優れたプロジェクトを作成したグループまたは個人用の、事業計画を実現させるための支援施設。修了後1年間、無償で事務所等として利用することができます。

使用時間：8:00～23:00



条件

1. 事業計画を実行に移し、ビジネスとして確立すること
2. 在学生に対して企業経営の実態を提示すること
3. 起業を目指す学生の相談に乗ること

FAQ

入試・出願について

Q1 入試に社会人枠はありますか。
また AO入試の企業等派遣とは何ですか？

IM研究科は高度職業人養成の専門職大学院ですので、職業経験（原則3年以上）のある方々を対象に募集を行っています。「AO入試の企業等派遣」とは、文字通り企業からの推薦を受けて入学するものです。入試要項内の「修学承諾書（推薦書）」の提出を必要とし、小論文は免除します。

カリキュラムについて

Q2 1年制と2年制の違いは何ですか？

1年制ビジネススクールは、最短で経営を学ぶコースです。一方、2年制はじっくり時間をかけて学ぶコースです。どちらも、本研究科の平日夜・土曜開講の講義を中心に履修します。なお、MBAコースの1年制は、中小企業診断士登録養成課程（MBA特別プログラム）必修科目を履修できませんので、ご注意ください。

学生生活について

Q3 MBAコースは、仕事をしながら1年または2年で修了することは可能ですか？多くの人はどのように履修をしていますか？

MBAコースでは、講義科目38単位（2単位科目の場合19科目）とプロジェクト10単位が修了要件となっています。以下は、講義科目の履修目安です。

●1年制の場合

平日夜3日（3科目）＋土曜日2科目で週5科目を4セメスター（学期）履修すると、講義科目は20科目（40単位）となります。

●2年制の場合

平日夜1日（1科目）＋土曜日2科目で週3科目を4セメスター（学期）×2年間履修すると、講義科目は24科目（48単位）となります。

この基本形に加え、春学期・秋学期の集中科目、オンデマンド科目を組み合わせ、各自のライフスタイルに合わせたカリキュラムを組んでいきます。

なお、プロジェクトについては、ゼミによって開講曜日などが異なるため、上記の講義科目に加えて、ゼミごとに履修計画を立てる必要があります。

自習環境について

Q4 自習環境はどのような環境が整えられていますか？

2階に院生研究室があり、自習ブースとロッカーが用意されています。年末年始や設備管理日など数日を除き、校舎の開館時間である8:00から23:00まで自分のスペースが確保されています。

OB・OG会

IMで築くネットワークは、
修了生の大きな財産
修了後も活発な連携で
互いを高め合っています

IMの価値は在籍中に修得する知識やスキルだけでなく、修了後のネットワークにも大きな価値があります。IMでは毎年多くの起業家や企業経営者、コンサルタントが輩出されています。これらのIMを中心とした人脈ネットワークの1つにIMOB・OG会があります。

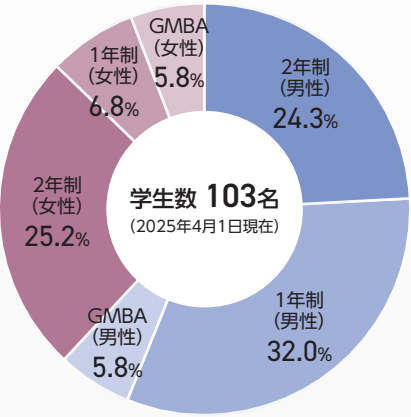
IMOB・OG会は、2010年10月に正式に発足しました。修了期によらずOB・OG同士、ひいては在学生や教員との間で、ビジネス面で相互補完し助け合う、新たな出会いを得る、新たな視点を獲得する、具体的な仕事の依頼先（依頼元）を見つける、人材を発掘する、人脈を形成する、教員との旧交を温めるなど、「つながりの場」としての機能を果たします。在学生は修了生から最新のビジネス動向を得ることができ、また修了後の活躍を肌で感じることができます。修了生はアカデミックな刺激を得ると同時に、同期の横のつながりだけでなく、期をまたいだ形でのビジネス上のコラボレーションを実現できます。

入学後すぐにIMOB・OG会のFacebookグループに入ること、積極的に修了生とコンタクトを取ることが可能です。OB・OG会のHPなどで修了後に自身の活躍を世の中に知らせることも可能です。



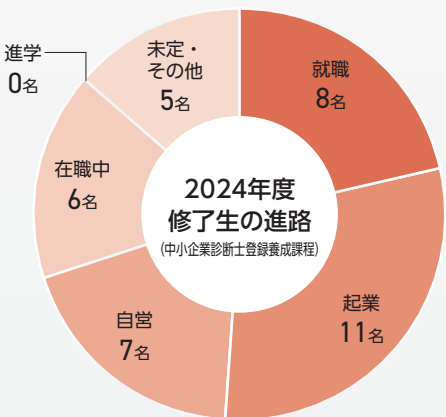
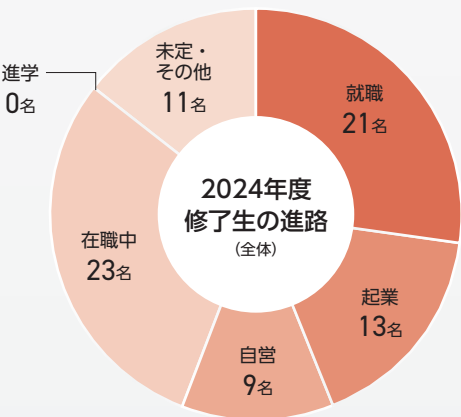
学生データ・修了生の声

◆ 在学生のプロフィール（2025年度）



◆ 修了生の進路（2024年度）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1年制	1名	1名	4名	2名	1名
2年制	15名	24名	16名	28名	37名
中小企業診断士登録養成課程	30名	35名	34名	36名	23名
GMBA	13名	8名	9名	12名	16名



修了生へ聞いた！
IMに入学して、どうだった？

※2023年度以前修了生へのアンケートより

異業種の人たちとの
ディスカッションを通じて、
自分の強みがみつかる！

個性豊かで刺激的な同期ができた！

先輩・同年代のキャリアバックグラウンドの多彩さが魅力！

授業も勿論良かったですが、能力も
意欲も人間力も高い仲間に出会えた
ことが何より良かったです。

まだまだ自分が成長できそうだと
思えることがたくさんある。

知識の点と点が線になっていくように、
次々と「なるほどそうだったのか！」
と気付きの連続でした。

IMをベースに、他の研究科
の講義も幅広く履修し学ぶ
ことで、学びを何に役立て
るべきか、社会や自分以外
の誰かのために、院生とし
て何を研究すべきか、その
テーマが見つかった。

学問のこと、将来のこと、
成し遂げたいことを語り合
える仲間ができた。
自分の未熟なところを指摘
してくれる仲間ができた。

実務と理論が一致してくる、実務的
な授業が多く、勉強するのが楽しい
と感じさせてくれる場所です。

経営を体系的に
学ぶことができた！

一生涯の仲間ができた！

プレゼンの場数が多いので、
いやでもプレゼン力があがる。

先生と距離感が近く、
相談しやすい！

サードプレイスが
一つ増えた！

いろんなキャリア、年齢、人柄、留学生の人もいて、
お互い尊重できていると思う。

修了後も、自分の専門外の領域につい
ては同期の協力を得ることもあり、生
涯の宝となっている。

独立しても一人じゃない！

入試制度・学費・奨学金

入試情報 2026年度入学試験日程（2026年4月入学）							
	出願期間	入学試験日	合格発表	入学手続期間	一般	AO	外国人 特別
第1回	2025年9月17日（水）～9月24日（水）	2025年10月5日（日）	2025年10月7日（火）	2025年10月8日（水）～10月15日（水）	○	○	○ ○
第2回	2025年11月5日（水）～11月12日（水）	2025年11月23日（日）	2025年11月25日（火）	2025年11月26日（水）～12月3日（水）	○	○	○
第3回	2026年1月7日（水）～1月14日（水）	2026年1月25日（日）	2026年1月27日（火）	2026年1月28日（水）～2月4日（水）	○	○	○
第4回	2026年1月28日（水）～2月4日（水）	2026年2月15日（日）	2026年2月17日（火）	2026年2月18日（水）～2月25日（水）	○	○	

募集人員		検定料
60名	1年制／40名程度（うち、中小企業診断士登録養成課程35名程度） 2年制／20名程度 1.5年制（グローバルMBAプログラム）／15名程度 ※詳細は7頁参照（上記とは別日程）	35,000円 ※一旦納入された検定料は理由の如何にかかわらず 返還いたしません。

学 費				
1 年 制				
	入学金	授業料	教育充実費	計
入学時	270,000円	1,157,000円	170,000円	1,597,000円
秋学期		1,157,000円	170,000円	1,327,000円
合 計				2,924,000円
2 年 制				
	入学金	授業料	教育充実費	計
入学時	270,000円	578,500円	135,000円	983,500円
1 年次秋学期		578,500円	135,000円	713,500円
1 年次計				1,697,000円
2 年次春学期		578,500円	135,000円	713,500円
2 年次秋学期		578,500円	135,000円	713,500円
2 年次計				1,427,000円
合 計				3,124,000円
※本学の学部卒業生、大学院修了者は、入学金、教育充実費が半額になります。				

専門実践教育訓練給付金

2年間で給付金額が最大 **128万円**

専門実践教育訓練給付金のご案内について

●本研究科は専門実践教育訓練給付の対象講座
法政大学専門職大学院イノベーション・マネ
ジメント研究科は、厚生労働省の教育訓練給付
制度（専門実践教育訓練給付）の対象指定講座
に指定されております。
なお、「専門実践教育訓練給付金」の手続申請
は、住んでいる住所地を管轄するハローワーク
に対して、**受講開始日の2週間前までに行う必要
があります。**教育訓練給付制度は、勤務期間な
ど適用条件がありますので、詳細については、
厚生労働省・都道府県労働局・ハローワークに
ご確認ください。

●専門実践教育訓練給付の給付額について
（厚生労働省HP「教育訓練給付制度」より引用）
受講費用の50％（年間上限40万円）が訓練受講中6か月ごとに支給され
ます。
資格取得等をし、かつ訓練修了後1年以内に雇用保険の被保険者として
雇用された場合は、受講費用の20％（年間上限16万円）が追加で支給さ
れます。
※令和6年10月以降に開講する講座の場合、上記の追加支給の要件を満
したうえで、訓練修了後の賃金が受講開始前と比較して5％以上上昇し
た場合は、受講費用の10％（年間上限8万円）が追加で支給されます。
この場合、すでに給付された訓練経費の50％と追加給付30％を合わせた
80％に相当する額が支給されることとなりますが、その額が 128万円を
超える場合の支給額は128万円（訓練期間が2年の場合、1年の場合は64
万円が上限）とし、4千円を超えない場合は支給されません。
※詳細については、「厚生労働省ホームページ」をご確認ください。

人材開発支援助成金の利用について

本研究科に入学する従業員の教育訓練費用を負担する事業主で一定の要件を満たす場合は、人材開発支援助成金を受給することができます。

人材開発支援助成金は、事業主が、雇用する労働者に対して職務に関連した専門的な知識および技能の習得をさせるための職業訓練などを計画に沿って実施した場合や人材育成制度を導入し労働者に適用した際に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部等を助成する制度です。同制度の詳細については、以下の厚生労働省ウェブサイトで確認してください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html

2025年度 IMオープンキャンパス・MBA合同説明会 日程

各種イベントの日程・詳細については、
ホームページをご確認ください。

<https://www.im.i.hosei.ac.jp/>



Access

JRをご利用の場合

〔総武線・中央線〕市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分

地下鉄をご利用の場合

- 〔都営新宿線〕市ヶ谷駅下車徒歩10分
- 〔都営大江戸線〕飯田橋駅下車徒歩10分
- 〔東京メトロ有楽町線〕市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分
- 〔東京メトロ東西線〕飯田橋駅下車徒歩10分
- 〔東京メトロ南北線〕市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分



学校法人法政大学は、「開かれた法政21」のビジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。

行動指針

- 1 地球環境問題についての教育研究および啓発活動を積極的に展開する。
- 2 省資源・省エネルギーに努める。
- 3 廃棄物の減量化・再資源化に努める。
- 4 自然環境の保護に努める。
- 5 環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に努める。



2024年3月、公益財団法人大学基準協会による2023年度「経営系専門職大学院認証評価」の結果が公表され、法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科は、適合していると認定され、認定証ならびに認定マークの交付を受けました。

入試要項・出願書類
はこちらに掲載しています。

▶ <https://www.im.i.hosei.ac.jp/admissions/application/>



お問い合わせ先

法政大学大学院事務部 専門職大学院課 (新一口坂校舎)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-3-9 TEL.03-3264-4341 FAX.03-3264-3990

E-mail: innovation@hosei.ac.jp <https://www.im.i.hosei.ac.jp>



この製品は、FSC®認証材および管理原材料から作られています。